

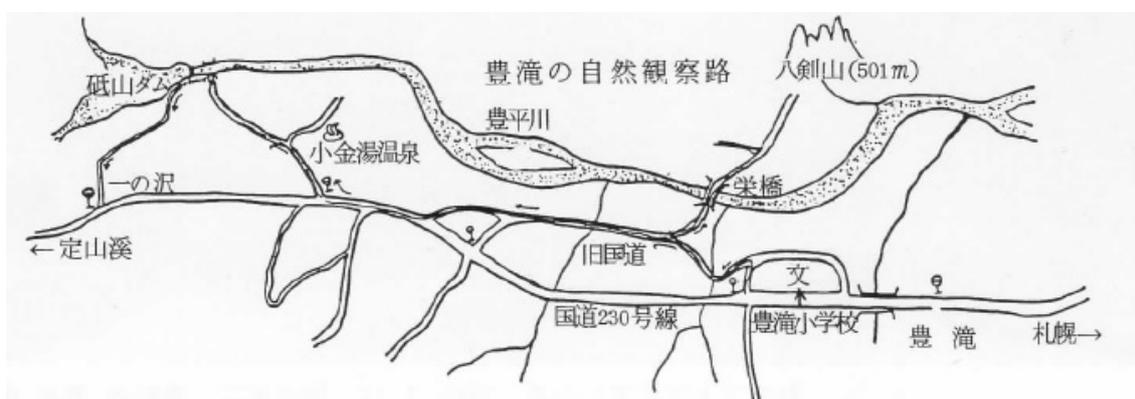
私の探鳥地（6）（野鳥だより 65号 1986年9月）

## 豊滝から砥石ダムまで（札幌市南区）

塚原 英代

豊平川をはさんで、すぐ向かい側に八剣山をのぞむ豊滝小学校に勤務しはじめて4年。

豊滝の自然に魅せられて、土曜の午後はもちろん、日曜日などにも出かけて、歩きまわっています。その日の気分や天候、時間の都合などによりいくつかのコースがありますが、今回はその中の豊滝から砥石ダムまでの旧国道コースをご紹介します。



豊滝から砥石ダムまで

国道230号線定山溪の少し手前、「豊滝小学校前」バス停を出発。八剣山へむかう旧国道を歩き出すと、左の空地では、ホオジロが、ネコヤナギのてっぺんで、“我ここにあり”と言わんばかりにさえずっています。右手のカラマツ林では、キクイタダキが忙しそうにチッチと枝から枝へと飛びまわっています。キリキリコロコロという声に顔をあげると、頭の上をカワラヒワが数羽、豊平川にむかっていきます。角の電柱にはスズメが巣を作っていることもあります。このあたりは、スズメとニューナイスズメが入り交じっていて時々けんかをしていることがありますので、注意して観察します。

左に折れて、坂を下る高い木の梢では、オオルリが、きれいな声を聞かせてくれます。馬頭観音を左に見て、小さな川にさしかかったら、カワガラスの姿を探します。チッチチッと鳴きながら飛ぶハクセキレイの後を追うように歩いていくと、八剣山へむかう道との別れ道。ここには大きな桜の木があり、春にはみごとな花を咲かせ、夏にはアオバトがその実を食べに集まって来ます。

ここでちょっと足をのばして、豊平川にかかる栄橋まで行ってみます。橋の上からは、ヤ

マセミが一休みしているのや、イソシギがにぎやかに鳴きながら岩の上で遊んでいるのが見られたりします。また時には、アオサギが砥山ダムの魚を狙ってか、はるばる野幌方面(?)から飛んで来るのに出会うこともあります。八剣山の上空では、ハリオアマツバメが飛び、天候によってはアマツバメも見られます。また、晴れた日には、クマタカがえものを狙って飛んでいたり、ハヤブサが出ることもあります。

小金湯にむかう旧国道に戻って歩きだすと、旧定山溪鉄道の土手では、アオジがのどかな唄を聞かせてくれます。左側の沼のむこうでは、ヤマゲラが木をつついています。コクワのつるのかげには、アカゲラもいるようです。

春ですと、足もとに咲くニリンソウなどを見ながら更に行くと、右手に大きな石碑が見えてくるあたりで、イカルの声が聞かれます。また、カラ類の群れに出会うこともあります。

国道に出て、更に行くと、小金湯温泉に行く道に出ます。その道を下っていくと、春早くには、ミズバショウの群落がみられます。旅館の方へむかわずに、定山溪方面へどんどん行くと、左の土手一面エゾエンゴサクの大群落がみられます。ほんとうに、青いじゅうたんを敷きつめたよう。それはそれは素敵なところです。(ぜひぜひ、春一番にどうぞ)

カラマツ林をぬけると、もう砥山ダムです。ここは、探鳥地としても紹介されていますがキセキレイ、オシドリ、マガモ、コガモ、カワアイサ、ときにはキンクロハジロなども見られます。

時間のある時にはここでしばらく待っていると、カワセミのダイビングが見られることもあります。静かな湖面では、魚のはねる水音が聞かれ、対岸の野鳥の声も聞こえてきます。トビの笛を吹くような声ものどかに聞こえます。左の広場では、モズがギチギチと鳴ていることもあります。秋の渡りの時期には、近くの水田あとで、カシラダカの群れもみられます。

体力に自信があれば、ここから更に、一の沢や、百松沢に足をのばすのもいいのですが、今回は、この辺でおしまいにします。

<見どころ>

渡りの時期には、カシラダカ、ベニマシコ、ベニヒワ、ハギマシコ、レンジャクなど。

周年では、ヤマセミ、カワガラス、カラ類など。